

令和5年度 学校経営環境分析書

明德中学校区 校番 20 明德中学校

1 学校の内外環境の分析

外部環境	<p>O (支援的要因)</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 保護者・地域住民の学校活動への関心が高く協力的である。 ② 校区内に小学校が1校であり、小中一貫教育に取り組みやすい。 ③ 自然が豊かで環境に恵まれている。 ④ タブレット等が整備され、AI型デジタルドリルが導入されるなど、生徒・教職員共に授業等で活用できる。 	<p>S (強み)</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 少人数であり、目が行き届き、個に応じたきめ細かな指導ができる。 ② 生活習慣の整った、素直で明るい生徒が多い。 ③ 縦割りの活動により学年を超えての交流が盛んに行われている。 ④ 教職員が協力的。 ⑤ 子供が地域に貢献しようとする地盤がある。 ⑥ 小中連携が良好である。 	内部環境	<p>支援的要因と強みを生かした活動・取組は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた指導（指導の個別化と学習の個性化）を充実させる。 ・小中一貫教育研究の推進（合同の行事、授業等）。 ・開かれた学校づくりの推進。 ・地域人材・資源を活用した学習活動の実施。（防災教育、音戸の舟唄等） ・オンラインでの交流。
	<p>T (阻害的要因)</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 少子化や校区の広さから、子ども同士のつながりが弱くなっている。 ② 過保護な家庭が多いが、家庭学習や配布物に目が行き届いていない。 ③ コロナ禍で校外外で行う活動に制限が多いある。 ④ コロナ対応、ICT教育の推進等、限られた教員数の中で教員の負担が大きい。 ⑤ 校舎が古く、トイレの洋式化が遅れ、特別教室にエアコンが無い。 ⑥ コロナ禍でおうち時間が増え、生徒のメディア視聴（TV、スマホ、タブレット）の時間が増加。 	<p>W (弱み)</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 授業は落ち着いているが、言語能力、学力が定着していない。 ② 人間関係が固定化し新たな刺激が少なく主体性も低い。 ③ 生徒の人数が少なく部活動に制限がある。 ④ 多様な意見や考えに触れる機会が少ない。 ⑤ 教員の分掌等に係る負担が大きい。 ⑥ 地域貢献や地域をどうしたいかという思いが薄い。 ⑦ メディアコントロールに課題のある生徒がいる。 		<p>阻害的要因と弱みを克服する活動・取組は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内外での交流活動等、共感的人間関係を育成する取組を行う。 ・職員や生徒相互が肯定的評価する取組を行う。 ・縦割り活動や保・小・中合同の行事を取り入れ、人間関係を広げると共に自己有用感を高める。 ・対人関係と感情コントロールのスキルを育てるSELの活用。 ・「情報センター」と「心の居場所」としての学校図書館の充実。 ・PTA や小中の連携でメディアコントロールに取り組む。

2 重点課題

① 個別最適な学びと協働的な学びの充実(学力の向上)

- 「個別最適な学び(指導の個別化と学習の個性化)」と「協働的な学び」の往還による充実
- 知識及び技能を実生活の場面で活用する力の育成
- ICTの効果的な活用
- 「情報センター」と「心の居場所」の役割を持たせた学校図書館の整備・利活用
- 生徒の学習の課題に応じた「学習フリータイム」の充実
- 特別支援や生徒理解の視点を取り入れた一人一人に寄り添う教育活動の推進
- 学びを支える言葉の力の育成(自分の考えを整理し、根拠をあげ、わかりやすく友だちに伝える活動の推進)

② 地域の構成員の一人としての参画意識及び自己有用感の育成

- 児童生徒が主体となり、企画・運営する行事等、異年齢の子どもや地域社会など、世代を越えた交流を通じた他者とかかわり合う場の設定
- 職員や生徒相互が肯定的評価(褒める、感謝する)する取組の継続
- SEL (Social and Emotional Learning) の活用
- M.S.R (明德サポートルーム) の整備、充実
- メディアを適切に利用できる力(メディアコントロール力)の育成

③ 安心・安全で信頼される学校

- 「呉市学校防災問題」における取組の充実
- 「呉市防災教育のための手引き」「土砂災害対応携帯マニュアル」の活用、家庭・地域を巻き込んだ実践
- 外部人材の活用
- 働き方改革の推進
- 教職員による不祥事の根絶